

武江年表

五



門 附 5
號 760
卷 5

武江年表卷之五

延享元年甲子

二月十八日改元



二月朔日より湯島天満宮境内を中野若船地蔵開帳○同日より市谷
 八幡宮地主茶本稲荷社開帳○二月八日夜子上刺天中央より少く西の方へ
 如以星規（星規の如く）加瑞（加瑞とす）といふ○二月より護國寺を武州河嶽山藏王
 権現開帳○二月より凌雲寺内松尾明神開帳○二月十六日より三日の
 石中村苑三井芝居舟舳の初年より百二十一年の壽狂言奥行○矢口
 新田林廓の碑を立南郭文を撰入○四月三日儒師山本吹丈（名信一柳島）
 ○約迎初日山王宮管建○四月朔日凌雲寺光感寺尚麻髪毛曼茶種を
 拵せむ○四月より護國寺を上碓氷郡松井田金剛寺十一面觀世音

武江年表卷之五

碓氷定光 閑帳 ○四月廿日より休川八幡宮境内にて 伊勢白子子安親世音閑帳 ○

守本尊 閑帳 ○八月十三日より日向院にて 夏より冬まで諸國風邪流行 ○六月十五日 神道 岡田盤成卒 名正利林九を 七十八才没す

仍安 ○七月朔日より日向院にて 務余高徳院大佛殿龍鉢池閑帳 ○七月 小葬

九八幡宮内氷室の林閑帳 ○七月朔日より芝神明宮内にて 杉根光明寺

十一面觀世音 依蓋太 閑帳 ○七月九日書家山本惟命卒 林忠方也 二回竜原寺小葬

○七月晦日休人 中川宗瑞 卒 暢隨院 小葬 ○七月海中魚多死生簀比魚

も同トく死せり ○八月八日不動尊内にて大藏切通一梅林寺身代

地蔵尊閑帳 ○九月廿一日山谷所奉性寺自雲靈神忌日之 杉州川辺郡 小濱の産岳

孫右衛門と改む法花を信トて常以統傳唱歌以三十八所をうまふる事トて死後 終るより秋山自雲灵神と祭る ○九月廿七日金雕之土安親 卒 七十六才通林林八 入りて来るといふ

○釜師淨林 卒 月日 不詳

延享二年乙丑

十二月間

二月初日より茅場町茶師境内にて信及蓮池院派坊本地勝軍不動尊閑帳

○二月六日龜戸天満宮近隣の在家より火出く先祖信が建立せし社以下一宇

も跡を焼亡せり ○二月より渋谷長谷寺大徳親世音漸首仏閑帳 ○月十一日

より日向院にて上洲根山正法寺親世音閑帳 ○二月十二日於五時五十分谷より

出火青山跡ら及横田麻布三軒家本村氷川社若福寺門前廣尾白令村二面併

四子白令瑞聖寺後町車町寺輪南小泉川追焼亡 氏家町後町寺 翌十三日 焼亡

鎮の言漏如来ち小なる個唱が化丈六の仁王等此石像并地蔵等の石像も

焼きて於方あり 白金細川廣尾中一の辺伊四子の 迎へ百三十年目までの敷焼とす ○四月朔日より淺草實相寺

にて常陸小金井妙徳寺日蓮上人閑帳 ○月日より日向院にて攝州茶碓山藤一

寺圓光大師引接跡地如来閑帳 ○月日より牛込田福寺にて相州妙徳寺星

降梅日蓮上人像開帳○同日より新嘉前八幡宮内にて信州高野山建徳寺不
動尊開帳○同月二日より本所寺の目大佛勅進不_レ動尊於東大寺二月堂觀
世音鉢陀如來開帳○四月より護國寺蟹清水出現茶師自坊より開帳○

四月十八日書家関口黄山卒名忠貞 小日向金剛寺小葬○七月朔日より伊勢朝熊岳金剛

燈寺虚空藏并回向院より開帳○同月六日より茅場町茶師内より相勅令

同山坂東七番目聖觀音開帳○八月十九日大風雨芝浜辺竜巻あり○九月十

四日大風家徳也後茅場井町銀杏八幡の 辰古古樹次あり○十月十日儒師長次東海卒名五字元下 徳川徳経

延享二年丙寅

二月初日より隅田川木母寺梅若丸寺本寺文殊菩薩開帳○同日より雜司谷

本納寺より相州系教寺休息日蓮上人開帳○二月廿九日夜に時宗徳地本願寺

殿武家方より火下とこの志武家方一系南八町燈本八町燈茅場町小細町大

坂町燈町葺草町芝居由座村松町燈町北辺武家方より喰町濱町日狛町米沢

町本所小泉町横綱町松井町相生町龜澤町辺武家方淺草より小堀米中より延焼

翌朔日夕七ツ時淺草の八束例の 坊舎の未割焼○二月毎日昼本所美山寺横堀より出火大

風此辺の寺院多く焼亡○三月より淺草寺内松壽院丈六每丈天燈籠像開帳

○書家赤井得水卒林文次子 伊勢町住○四月初日より橋上寺常照院何ん芝浦出現

鉢陀如來開帳○同月より湯島美林内にて常州麻島護摩堂本寺五丈の

五開帳○下落合某王院釈迦如來開帳○四月烏丸光榮公園東山下向所

道の祀ありくわの溪の祀とあり字介 一巻○淺草池の妙音寺より駿河蓮永寺

日蓮上人鏡於開帳○目黒不動尊境内より下総葛飾郡正覺寺より不動尊開帳

○半込系町後主寺より京上寺利実相寺兩新日蓮上人像開帳○六月十

八日より六月十八日迄日延 三十日淺草寺觀世音開帳○同廿六日より新嘉前大護院

八幡宮中地愛深明王開帳 ○六月十日儒師藤江那良平 林深務西久保 光のまゝ ○七月

朔日より忠告中地花名開帳 ○七月より本所彌勒寺川上茶師如來開帳

○七月十日秋澤章彌池田利美紀伊必孫熱湯の二入淡更川に網を打て一寸

七分の不勤者の像をとりて大同二年空海と彫り谷中妙林寺に安置す ○九月

芝神明宮神主西条豊前守天満宮主草重像をねせむ ○九月朔日より谷中

大系寺ありて大系天開帳 ○十一月朔日社別当成徳院本堂方丈障掛をの外

とも焼亡 ○事以合考字本成 物語永成 若 ○江戸めづり二冊持形 本多 安藤子

○江戸名勝志持形 友之藤著 三巻

延享四年丁卯

二月朔日より淡草寺内梅園院子育仁王尊開帳 ○同日より淡草新地東新寺

茶師如來開帳 ○二月九日外橋田火事淡草の藩邸敷地九十疔と云 ○淡草

八幡寺町本法寺老安房茶小松末鏡息古日蓮上人像開帳 ○牛込七軒寺

町久成寺にて後河原本日蓮上人像開帳 ○二月朔日より谷中一宮寺子安鬼

子母神開帳 ○下谷法養寺にて甲加鞆淨經寺日蓮上人開帳 ○三月悪

黨濱島庄去請并當於刑せらるる世に日本丸と云 ○四月朔日大霜降つ

る ○月日より深川永代寺にて大坂所城徳生玉助神開帳 ○月日より谷中

妙法寺にて中山日蓮上人像開帳 ○月日より廿日追押上其妻寺尊賢菩薩

開帳 ○二回寺町林泉寺にて其為契契那牛其似村性生る園光大師開帳 ○

牛込神樂坂元寺親世寺不動尊開帳 ○小石川若雄寺より地蔵尊開帳 ○

高橋正覺寺跡地如來開帳 ○後江宮成院 社 神田明神北隣に後 後安永 中元の

後江宮 後江宮 ○六月十七日儒師菅野兼山平 平 兼山 ○六月二日俳人小川破笠平

八十金大名家有林平助惟勝并二画せよし 七十三年淡草 報恩寺中

又塗物よりわりの細工を名あり揃下は信せり ○六月廿七日俳人致曲庵遠志平

又塗物よりわりの細工を名あり揃下は信せり ○六月廿七日俳人致曲庵遠志平

○六月廿日太宰春菴平八十八天祐孫名勝門 ○春川秀蝶谷中 春菴天理寺小菴 春菴

會相園の額を掲ぐ ○清草大獲院八幡宮修復助成の爲三年の暑晴天八日

の寄進縁由あり ○七月廿日より日向院より羽州湯殿山法連寺大日如來

開帳 ○月日より日向院より上徳園小田森大森寺法院如來開帳 ○十月上旬より

諸小風邪流行 ○十月廿日俳人菊岡沾涼卒六十余才名房号号米山崔下菴林菴

存稿林田源明住江分抄子世は流傳

此年間記事

真先稻荷社延享三四年の以より諸人多く整榮せり ○谷中益敷稻荷末稻荷

○風園湯崎天林中坂より 聖堂後一後

○延享二年の美江居の流傳物を集め方句集あり時時風と歌を吟む唐門人及

故新果然といふ人の編再ハ書合 其内を撰て目次のをたふあり

浮瑠遠東の山水也 雜司谷會式飾物門百夏系 門風車志道新講 中野

桃園馬が塚 吹矢丁子屋 香具女南力 依菴良去清 辻宝引△

象股引券筒力 大名俵純 聾道△ 竹村蒸候 多敷稻荷 西面△

雷轟之 相撲△ 芝鏡切取 赤坂△ 山崎△ 薩摩△ 薩摩△ 薩摩△

珍重せ 日向院淡雪 池の端△ 小間△ 深川筑紫 麦△ 牡丹△ 牡丹△

花廿日牛込向△ 海老花△ 蛸蛤△ 宅中△ 植木市△ 依菴△ 園十良△ 依菴

湯島油揚△ 伊四子△ 麩△ 霞面△ 山下△ 敏△ 一統子△ 依菴△ 依菴△ 依菴△

依菴△ 中村△ 依菴△ 依菴△ 吉原△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△

依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△

依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△

依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△

依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△ 依菴△

涼城大馬

新米や二にのりうとりの山狩野實信凍城の

△八人藝 △習志代

今も年代のりて

△馬子丸 △扇屋深

丸くは角巻扇城の角巻をこけ形を文(中)に

△加賀骨扇 △蕃林

地蔵号

△懐紙折

△狂言坊

△本業餅

何れども誓ければぞ

○婦女のわがさうといふ物始る後一旦廢れり寛政より再改りる○郡内

微塵偽衣類を穿る○江戸路去依名祀茶籠木の標芝居ありしに

次第不廢れ大改の儀を之とせり

寛延元年戊辰

十月間 七月十八日改元

二月二日夜谷中瑞林寺より出火本堂塔以下焼亡感應寺

本堂塔頭門前町を焼亡○三月十八日より魚籃觀世音圖帳○八月より

三田基町泉福寺茶師圖帳○八月日より魚籃下大信寺觀世音圖帳

八月廿五日官醫曲直津若端卒

六十三才養安院と号す

○二月廿九日南郭の長子

温々卒 三十分

○四月朔日より日蓮社天壽院如來靈室圖帳○八月より

永代寺八幡宮圖帳○二本榎兼敬寺祖師圖帳○法華日福寺本所回向院

のの祈り於て奥明會津西光寺日蓮地蔵圖帳○六月朝鮮人未聘

副使南茶孝後事曹命某旅荷東本於るなり

真狂金幣井といふ人渡りたる瀧主堂の額を書す

○八月十日書家馬場兼水卒

○閏十月廿二日他人堀内仙鶴卒

○十二月琉球人某聘

○今年外佛啓齋統率りの月日詳あるに

同二年己巳

正月廿三日長後院等道祖長権耕雲卒

山義樹卒

倭記よりしてたよるに

○深川海傍井天古川茶師如來院安養品川寺水月觀音三の輪美坐觀世音
秋葉控規四谷生威院鹽踏地苑為淺草東船町東住院為福井天儀多内
日香院荒澤不動尊門松壽院六井天儀多觀音為池の如音多如見芥
不惡池弁天文殊池の地を造りて納む武年より芳下迄。谷中長蓮寺祖師鬼子母
社三回寺町明王院弘法大師門和於海寺不動尊。右仙風自防小居村の園帳之
○本母寺梅若丸二十万六千日供養○二月九日八回向院日終て常陸國河内郡
大徳村宝積寺子安井天大園帳○四月朔日より五月晦日迄回向院之三河
小山中檀林法苑寺出世觀世音園帳○五月十九日六月二日迄龜戸妙義山
檀院系帳○六月六日羅漢寺中興先和為寂七十○六月四日北村湖元卒
○七月朔日より回向院に於て信長若光寺本門前西前萱親子地
苑為園帳○當夏中より雨繁く降りて七月も晴まかく廿六日より大風

為りより雨降り續き八朝大風起り時雨降八月十二日の曉より小風大
嵐となりて半辺小日向出有下谷淺草辺迄溢れ出る田圃口辺家を流一人を
溺れ江戸川通り橋を押し流し小石川通大水神田上水榭榎流き昌平橋氣
遠橋之外新田川橋を流る為國橋大橋恙迄中不流川水急九月
より雨晴天とあり○八月光物花ふ○雜司谷鬼子母神境内は孝女く免と
りりの麦茶葉を作する南吉清獅子と賣り始む○十月十八日茶人望月
宗舟卒吳の海新○新著聞集十八冊刊行中古世の中の時節を○今年卯の
為井天本社は園帳有り江戸より系清の遊まあり

寛延三年庚午

二月十五日より下谷岩寺地苑為園帳○高田感通寺毘沙門天園帳
○三月十八日より晴天十六日迄遠橋河門外畠地に於て俗より親世大更勅進能

真仍あり○房州が茂村日蓮寺祖師浅草 ちて開帳○四月八日より

七月迄芝泉岳を新迹如來開帳○日暮里本坊より小道灌丘碑を立築波山人

石正橋文を撰む○四月廿三日朝曇八ッ時西小大風向大霰降 本不辺九ノ千
女臣十位給

此と之家を流る小川町番町八十多位筋送外執進徳尊寺
御是より家極を丸らるを在在中人るをく格之 ○六月より圓向院を甲州

信玄寺不動尊開帳○七月より濱原新松院を越後西降寺法院如來

弘智法印像開帳○七月七日儒師中尾廣徳平 林正翁西隆
天植と尊 ○七月十七日

儒師井戸甘谷平 拾部右馬助名方慈
日暮里二丁目三小菰

此年間に記事

延享四年三月の雨より不忍池形を築地出島へ茶店揚弓場溝敷場未建
法をね松島一又寛延二年舟又天の島より西茅町の裏一板橋を信折は
て架けおふりりて八ッ橋より越え九ッの懸多く死由を以て

毀ちおらる○此時代より開帳場を神佛よりバ帳と云ふ事始なり

○江戸史稿六十帖写本成 元禄の江戸風俗を
あつせしものあり ○享保廿年の江戸松子拾遺寛

延四年の再訂惣庶子に汝時世の商物を載れども二書世より友らふ

抄物せん○傀儡師江戸の方言よ山猫といひ一月々七八度同トおせ

りし此時代より絶たり○宗十郎中をかりおし○寛延四年江戸圖

ふ天文巻神田佐久間町二丁目三丁目の小あり池の端築出り新地と記り

白山河殿は茶園と名風園寺聖堂南ふあり

寶曆元年辛未 六月間 十月三日改元

二月十八日より護國寺親世音開帳○三月十日佛入石脇子卒 深川右方なり
長栄寺より葬を

○三月十八日より浅草寺親世音開帳 享保四年より二十三年月あてち内神佛のちうげ
開帳あり音系玉松内松味といふ越女十二柳灯を

此の丸の紋と符と符と符納をこれより十二てうちのふははとて
その名をく小畑あまつうとくといふをわしける ○三月廿一日江戸日中

木下川浄光寺某師如來開帳 ○二月廿二日より平井村燈明寺にて成回不動
 寺開帳 ○四月朔日より浅草報恩寺親雲上人建物を修せしむ ○同日より
 浅草寺所正福院柳福花開帳 ○同日より回向院にて甲及若光寺保庇如
 來院秘佛開帳 ○系於本満寺祖師谷中妙法寺にて開帳 ○其金枝
 因縁七面大明神開帳 ○大師河原草間寺大師開帳 ○持乳山聖天宮并
 帳 ○浅草寺町 之依渡塚系振中寺祖師開帳 ○所養寺八幡宮
 開帳 ○四月朔日より湯島社地にて後父子権現開帳 ○同日より所養
 寺八幡宮にて豆及加茂郡最勝院釈迦如來開帳 ○浅草寺内正福
 院にて鎌倉永谷貞昌院天満宮開帳 ○谷中妙法寺不動寺開帳
 ○不忠系才天より湯島水戸玉里妙法寺不動寺開帳 ○六月三日
 侍人益田雀樓卒 名伯隣本所也丁目美多某店のある一あり
 白石の門人あり一時とある ○八月廿日

荷田在満東於 早の才林東に遊談者を誘ち不華以男所也
 秘系花といふ江戸ふかいて玉學を教授也 ○九月毎日俳人
 小沢卜尺卒 浅草の藝者なり華以
 本私丁の坊より ○十月十日儒師市野光業卒 享子暉本が歌の中
 本福寺不華以
 ○若菜の女藝者といふもの今年より始る 扇屋の奇仙といふもの始りたり
 出来たり一より後昔物指あやう
 ○再訂江戸惣席子名所大全持行 奥村玉華編
 七冊 ○南向茶話字本成 酒井氏
 忠昌著
 江戸地理沿革の回答あり明治二年の
 逸考を合す一部と云

宝曆二年壬申

正月四日物表家丹羽正伯卒 丸山寺坊
 ちん華以 ○二月二日より三圍稲花明神開帳
 ○二月廿二日より中のつ如玄輪寺聖徳太子冥帳 ○二月廿六日天満宮八百又
 十年所忘 ○同日より湯島天満宮翻町平河天満宮 小石川牛天神菓鴨
 小系町天満宮開帳 飛戸天満宮へ今年社建立成て二月十九日より廿五日まで
 開帳 ○二月廿八日より同是不動寺開帳 ○三月朔日より湯島社地にて伊豆

八丈島為朝明神開帳 ○四月朔日より龜戸新嶽山権現業平天神南嶽院

吾妻森吾妻権現 龜戸ふんしん門院ふんしん正觀音 木母寺梅若の古本りしん為文殊并飛

戸竜眼りゅうがん中嶽権現ちゅうたけ神宮しんぐう右みぎの自坊みづのぼり於お開帳あり ○四月朔日より

日向院ひなたのいん之系ちぎ知恩ちおん田光でんこう大師だいし利劍りけん名号なごう開帳 ○同日より半邊はんぺん京町妙みやう山寺

あき房あきふらう及小こ溪せき誕生たんにん之祖そ師し開帳 ○丸山まるやま淨心じやうしん之祖そ師し谷中やちゆう中ちゆうが祖そ師し

開帳 ○四月しがつ々々麻布まふ光雲こううん之の大師だいし河原かわら清せい宝ほう院いん地ぢ飛ひ井い開帳 ○四月より

目録もろく之の福院ふくいん誕生たんにん八幡宮はつぱんぐう開帳 ○五月ごがつ深川ふかがわ三十二さんじふに之の堂どう重修しゆしゆ ○六月ろくがつ廿二にじふに日にち

池いけの惣そう抄しやう地ぢの桑そう屋や六十九むそくじゅう軒けん中ちゆう外がい家け敷しき除ぞ多た引ひ拂はらせらるる 衆しゆ成じやう之の女にょ之の二に重ちゆう也や

○七月しちがつ朔日しやくにちより湯島ゆがしま社しゃ地下野ぢか那な須す野の泉いづみ溪せき之の殿でん生せい石いし化け度た聖せい觀くわん音おん開帳

○同日どうじつより日向院ひなたのいん之の武州ぶしゅう羽は生せい不ふ動どう之の長ちやう村むら惣そう敷しき之の不ふ動どう之の八はち丈ぢやう子こ開帳

○七月しちがつ十五日じふごにち儒師にゅうし中西ちゆうせい淡たん淵えん卒すふ 早はや二十にじゅう名な維い章ちやう孫そん号ごう七しち弟てい 塔たつ上かみ之の地ぢ中ちゆう瑞ずい若じやく院いん不ふ華け次じ ○同月どうげつ十八じふはち日にち倭やまと文ぶん子こ卒すふ

弓丁伊勢屋平石傳ゆみぢいせいやへいしへんの娘むすめ一ひと々々之の門かど小こ入いて園いん学がく和わ之の小こ名なあり海うみ川がわ本ほん権けん之の小こ華け次じ ○七月しちがつ墨すみ院いん川がわ于よ深ふか島しま之の為ため無む四よ尺ぢやく

餘あま之の長ちやうサさ之の尺ぢやく除ぞ之の方かた之の知ち之のバば 大おほ江え戸う ○八月はちがつ二に日にち夜よ永えい代だい格かくの北きたの方かた小

後あご産うぶあり何なにとも知ち之のバば 日ひ之のハは ○七月しちがつ護ご持ぢ院いん大だい破ぱ之の付つ江え戸う町まち之の化け也や兼かみ之の

○八月はちがつ十二じふに日にち山やま縣けん周しゅう南なん卒すふ 今いま年ねん之の保ほ福ふく之の事こと ○高たか井い之の常じやう光こう之の向むかひ令しむ引ひ之の後のち

明和二年めいわにねん相あひ秀しゆ寺てらと改かへ持ぢ乃の上かみ入い痛いた之のあり ○十二月じふにがつ流りゅう球きゅう人にん來きた牌はい 正せい使し今いま内うち仁にん王おう子こ

宝曆三年 癸酉

正月しちがつ四よ日にち六む日にち八はち日にち大雪おほゆき九ここの日にち十七じふしち日にち十八じふはち日にち為な廿二にじふに日にち雪ゆき廿二にじふに日にち大雪おほゆき廿二にじふに日にち為な二月にがつ朔日しやくにち

二日ふたにち三日さんにち六む日にち九ここの日にち十日じゆにち十二じふにち日にち為な十六じふろく日にち地震ぢしん十七じふしち日にち為な十九じふく日にち大雪おほゆき廿二にじふに日にち終しゆう也や

廿三日にじふさんにち廿八にじふはちにち日にち廿九にじふくにち日にち世よ日にち為な三月さんがつ三日さんにち大風おほかぜ為な曉あけ七しち時ときより雷かみなり之の大おほ雪ゆき降ふり六む時とき曉あけ其その氣き

候あき如ごと此ごと ○二月にがつ朔日しやくにちより約やく込こ目め赤あか不ふ動どう之の開帳 ○同どう十六じふろく日にちより護ご園いん之の引ひ之の後のち

甲州こうしゅう万まん力りき村むら帰かへ命めい院いん信しん玄げん寺てら中ちゆう之の深ふか院いん如ごと東とう開帳 ○三月さんがつ十六じふろく日にち甲州こうしゅう身み延えん山さん祖そ師し

戸帳より付江戸到着の日近しい人数品川より日本橋迄行く何町構中と出づ
行帳ありと云ふ
困帳様中い
四月朔日より深川降ふと云ふ困帳

○三月十三日より九月毎日近薩摩外祀座にてわづり人散芝居真形本小会

小四郎之○四月朔日より湯島社地にて武則一の宮齋川明神困帳○同日

回向院にて武則熊谷と深院如未蓮生坊新困帳○四月八日近新形と若草

大師新困帳○四月十五日より深川永代にて奥島金花山并大文
大文 困帳 教団甲
細子の
八幡町整甲あり
右兵衛海と六月二日より十日迄本母より困帳あり○四月より

九月より麻彦流形人より死を○五月十二日儒師相考亮居卒
号親圃又白圭
麻布茶室並

○六月舟森良芝居曾我祭今年より始る○六月廿日能師相月堂法眼不角

卒
九十二才立羽千翁と云集比の成徳者以葬之
○七月朔日浅草法眼と云わ州龍の
辞世 空也みわりの裸より成りけり

以祖師困帳○同日より護國寺にてわ州曾我中村と遠山祐信院深院如未

不執者困帳○同日より
八日
蕪場町某師境内にて大坂又五と南谷室泉

尾寺而聖徳太子
東岸
正親善困帳
誓の能りのを納む
○七月朔日より回

向院にて徳及大友法親善寺馬頭親世善困帳○月十六日より浅草極楽にて

奥列衣川地院子と親世善善立住生像
六十二才
困帳○八月廿一日書家

平林惇信卒
六十八才号神安消日居林衣入印
本所中之妙源寺並
○十月谷中巖寺と小會武極楽

始む
弟延三十三日身上人様ありけり年
と云午三回忌ふ高くと花嘆まふと云ふ

宝曆元年甲戌 二月回

正月廿日秋生叔達卒
名親号北溪祖来の家計
三田長春寺並葬り
○国二月より元八幡宮本地佛

氷室明神困帳○月回向院にて奥列會津高巖寺園光大師困帳○

国二月二日より元花房八幡宮内にて越後乙宝寺大日如来并帳○国二月より

永代寺にて藤波山本地親世善困帳○護国寺親世善困帳什宝と并せむ

○三月十六日儒師莊子謙卒 名益益名福少福少小孫 ○四月朔日より南都西大寺秋迦

如末開帳 ○四月廿五日儒師谷口千秋卒 林多膳約也瑞恭ら小孫 ○五月三日儒師去存瑞直

卒 号琴正基清ま海禪も小孫也 ○六月廿五日能人櫻井吏登卒 後の雲中者 ○幡隨玄院のそつ頓

和尚谷中三崎小勇賢山法住寺開創 其地ハ溝ハ炭より沖寄附あり 江戸中の男女地形の之

砂を運び目あふべしと成社す世俗新幡隨玄院といふ ○七月廿二日淳世修師

羽川珍重卒 七十余才此のそふ田あふ華ハ甚修曲亭の燕石雜誌ふ ○八月十五日夜西の

刻月蝕 皆既 ○八月十七日儒師石島正倚卒 荒波山人と号ハ約也出昌と小孫 ○十月改曆領の宝曆

あつみといふ ○十一月十六日儒師河合子深卒 号静舟松二ハ麻布居ま ○十一月廿二日能師

自在庵祇徳卒 押と大雲寺小孫也 評世空さてりしとあしをゆるあり

宝曆五年乙亥

二月朔日より谷中妙法さへく豆別玉法花と祖師開帳 ○三月より護國寺

あて常則 名益益不動名開帳 ○二月朔日より晦日迄牛はま社改修す後

成地と付開帳 山縁不也修接あり ○三月十三日下谷法書とあて比上本門と旅立祖師開

帳 ○同月十五日より十九日まで回向院とて明曆下西正月焼死溺死の輩百年

忌五戒法あり ○三月十六日より深川永代寺とて信州戸隠の神九頭龍

権現 顯老 開帳 この時林本と高ふ村子更女の安えあり千名をおま ○同日より浅草

降念寺大宇利劍名号 法思如高の茶 朝日如東開帳 ○芽場町某師内とて

ねぬ大山の蘇子易親世音開帳 ○四月の以下より下総古河恩業橋の造より

弘法大師の利益とて茶水涌出るといふ俗説を信し貴賤羣衆とてこの水とて

或身内(確)と九月迄小彼地と旅舎千軒餘を列し又石と文字現き石

より芽せ出ひしと流言とて江戸市中の路を極るものあり翌年小孫り

止む ○四月朔日より回向院とて小金東漸寺圓光大師開帳 ○四月より

青山善光寺延陀如來開帳○江之上宮每才又開帳○八月十五日夜圓成時月蝕六分○冬米價貴踊之○十月儒師
飛智圭例卒名烟淺菜 飛智院子孫

宝曆六年丙子 十一月

正月十日新我本町より出火為座芝居敷焼○去年冬より米價以貴り
色揚走○二月朔日より牛込久成より上総國植生郡妙宣より日親誕生地
経讀祖師開帳○圓向院より彼岸中加賀白山神形釈迦佛舎利園開帳
筆法虎画と掲る○三月中裂風吹燒き度く火災なり○四月朔日より圓向
院より安房國那古寺坂本二十番 親世音開帳○四月六日より日馬成院新業
師開帳○四月より東の院より常陸國茨城郡福田山西念寺宝物を掲げむ
○四月より下谷本法より下谷平賀本寺より白毫光教祖師開帳○市谷

八幡宮境内より慈念坊より圓我院弘法大師八幡大菩薩開帳○六月東
叡山仁王門新再建成○六月画工三河川龜玉卒み十八才白山中丁の光るふ ○六月

廿音佛人兩夜菴飛成卒牛あ 弘福寺本葬 ○七月下谷五束より佐波一谷妙照卒

祖師開帳○十月谷中修性院の庭今年より園き毎春遊觀の所とある

發起高田氏庭石是為斗碑と立てたの石鏡と
不二法のハハのありしひらく庭
○閏十月廿日儒師小山三山卒名老之 林茂平

焼亡山下町加賀町惣十郎町尾張町辺出雲町金六町辺沼田本枕町三

十石堀仙臺堂與平度所藩邸同日於此に祭地武家方より出火して

為本敷る地内十日五より南小田系町海子延焼亡○同日益子青山檀田系

より出火して麻布辺二本榎三田の邊を焼亡○本年新町家此に延焼し

く崩しものと思ふる菜蔬とせり不作りより一ガ町屋に改り後二の料理

兼屋を出し女を花にて砂をまきせり世人大根畑とすいあふせり

宝曆七年丁丑

三月朔日より芝林明宮境内より近江多賀大社開帳○三月より上野
清水親世音開帳画工雲仙亦尚徳上野清水半之景法穿破の類を掲
○三月十日より辛日川に善光寺本号鉢地如來開帳本堂修繕今年成就
せり○四月十五日より不忍寺又開帳○三月より常宿現社地之武洲より
幡金剛寺火防不動寺長一丈開帳○四月朔日より日向院より安房清浄寺能
満虚空蔵并開帳○四月朔日より日向院より越後より回善導寺若守大
師因光大師開帳○四月より淡草九品寺番履地藏寺開帳○永代より
赤木山金蓮寺深谷地蔵寺開帳○四月より五月近霖雨冥赤洪水奥州
肌腫之江戸の米價も次第に登揚せり○七月關東中玉洪水○八月三日

谷中法住寺開帳了願和尚寂○八月十日下谷坂本小野照修明浄系乳

牛練物不出は後中修之○八月十四日官儒土肥元仲卒名元成号霞洲

○九月廿二日より深川八幡宮境内より大慈氏勧進修興行○因村元

旛始々湯島小いにて物差會を催は聖平又林田○真光稲荷社流石出て因樂

茶屋救軒出来て發昌す○十月廿日金剛寺柳川直政卒六千○十一月廿八日

儒師松東園卒名道隆半島○十二月廿六日淡草寺松町より出火して火

火不及ふ所蔵の恙あり

同 八年戊寅

二月八日より木下川茶師如來開帳○二月より獲國寺より下野出流山小

子親世音開帳○二月十五日日向院より常陸應為本地主親世音開帳

○同寺より陸海若橋新善光寺鉢地如來開帳○三月朔日より晦日近

浅草報恩寺之内八尾所坊大信寺宝物を拜せむ ○浅草若立寺父
 佐波國新報實相寺朝日祖師并帳 ○牛込系町光光寺少子後州沼津
 妙海寺祖師并帳 ○麻布兼教寺少子鎌倉松葉谷妙法寺祖師并帳
 ○湯島社地之北敵山坂本末達寺孫院如來開帳 ○廣尾天現寺
 毘沙門天開帳 ○市谷八幡宮内之遠州濱松大福寺茶師如來開帳
 ○赤坂鈴降稲荷開帳 ○芝石下高福寺茶師鞠町九丁目宮茶師開帳 ○
 三月十日夜四時冥夜島公火入大川端追焼七時瑞火 ○六月日蓮寺師里
 村昌迪率平 ○八月八日觀測海曇寺觀世音并帳 ○九月廿日廿九日追雷鳴雷降 ○
 古曆便覽再刊 茶師小宮兼教寺茶師并帳
寺通不月十日あり ○十一月深川靈雲院開創 本山堂山
備外空曆十年二月六日の災あり
此は林茶度下並あり
 宝曆九年己卯 七月国

二月十日より回向院より出羽湯殿山本道寺大日如來開帳 ○二月徳不不度火
 災あり ○三月十三日より浅草若立寺より系妙満寺祖師并帳 二十二夜徳村曼茶
羅茶道成り後あり
 不立寺 ○二月廿七日御人若本乾付率 満屋新干茶見と号并世雲餅八十年の御外
二句の御茶上りの文句を号し作れし作人といひ
るは乾付より世不傳り下作のまも性く志記せりかかれ声曲於纂小亦添てある徳一つこの
以茶湯の傍正井為氏の種より作人といひ彼家の祖より作正明と号し御湯を乾付不學入
て井婦人と号し以乾付の世不初と号す ○三月十日より本寺乾付寺座敷より越後高田本
 在自ら混して傳りりといひ ○三月十日より本寺乾付寺座敷より越後高田本
 松倉寺宝物川越の名号を拜せむ ○三月川橋明長寺石親寺開帳 ○芝
 倉松園珠寺少子千住日兼寺鬼子母神 清心
不持 并帳 ○四月八日より本所孫助寺
 茶師如來開帳 ○同日より下谷法養寺少子徳倉比企谷妙本寺祖師開帳 ○四
 月十五日より廿八日追焼戸妙義山権現開帳 ○浅草園麿堂又多田茶師内
 三奥州御洋虛空苑并賓頭盧舎者開帳 ○米穀豊饒あり ○六月廿日
 服部南郭率 七十七名名元番林小右衛門品川東海寺坊林院
兼以男惟安惟恭ハ又小先亡率以 ○七月初日より麻布

善福寺親鸞上人^{善福寺}海上人^{海上}像開帳^{開帳}○同日淺草玉泉寺^{玉泉寺}之相州星降天拜祖師

開帳^{星降妙純也} ○武州大板大聖寺^{大板大聖寺}不動尊自坊之開帳者○八月令儀札

新規^{新規}以停止あり○八月十五日高田穴八幡宮祭礼出^{祭礼出}禊^禊り物を出^{禊り物を出}其後明和也

年返續く○九月十六日約迎神明宮祭礼産子町より出^{産子町より出}禊^禊り物を出^{禊り物を出}

平賀鳩溪湯^{平賀鳩溪湯}湯^湯の命を催^{命を催}り ○九月晦日法惠和尚^{法惠和尚}迎^迎園宗寺

小寂^{小寂}以^以 ○九月晦日法惠和尚^{法惠和尚}迎^迎園宗寺

人得阿弥院^{阿弥院}と号^{と号}を以^{を以}の願^{の願}徳^徳之^之と^とり^り ○秋^秋白隱^{白隱}禪師^{禪師}深

川^川際^際川^川と^とあ^あら^らわ^わい^いて^て講^講説^説あり^{あり} ○秋^秋白隱^{白隱}禪師^{禪師}深

と^と作^作ぐ^ぐ ○秋^秋白隱^{白隱}禪師^{禪師}深

寶曆十年庚辰

正月二日^{正月二日}目^目志^志祐^祐大^大寺^寺二^二夜^夜祐^祐海^海上^上人^人寂^寂 ○二月^{二月}廿^廿日^日夜^夜八^八時^時未^未及

今井谷より失火^{失火}と^と麻^麻布^布辺^辺日^日が^が産^産雜^雜色^色十^十番^番個^個坂^坂三^三田^田寺^寺町^町伊^伊四^四子^子聖^聖坂^坂より

田町^{田町}不^不川^川海^海多^多不^不玉^玉 ○同日^{同日}六^六日^日成^成刻^刻祐^祐田^田旅^旅籠^籠町^町寺^寺子^子明^明石^石登^登と^とり^り是^是袋^袋屋

より出^出火^火乾^乾大^大風^風佐^佐久^久間^間町^町辺^辺い^いり^り不^不及^及り^り浅^浅草^草辺^辺為^為不^不橋^橋馬^馬喰^喰町^町本^本所^所日^日本^本橋^橋江^江戸

橋^橋辺^辺靈^靈巖^巖島^島新^新川^川辺^辺深^深川^川一^一飛^飛洲^洲崎^崎本^本場^場の^の辺^辺迄^迄焼^焼亡^亡世^世三^三万^万堂^堂焼^焼又^又永^永代^代橋^橋新^新大

橋^橋も^も焼^焼り^り七^七日^日已^已刻^刻燃^燃火^火 ○同日^{同日}芝^芝村^村町^町赤^赤木^木好^好香^香の^の向^向湯^湯屋^屋より出^出火^火廣^廣松^松町^町門^門

前^前金^金松^松芝^芝田^田町^町本^本芝^芝海^海濱^濱迄^迄焼^焼亡^亡 ○三月^{三月}十^十日^日より四月^{四月}六^六日^日まで六^六阿^阿弥^弥陀^陀

不^不殊^殊開^開帳^帳以^以基^基并^并千^千五^五十^十年^年忌^忌 ○市^市谷^谷八^八幡^幡宮^宮甲^甲冨^冨村^村像^像開^開帳^帳 ○王^王子^子稻^稻荷

社^社地^地之^之越^越後^後高^高田^田妻^妻日^日山^山 毘^毘沙^沙門^門大^大開^開帳^帳 ○三月^{三月}廿^廿日^日より回^回向^向院^院まで美^美濃

國^國稻^稻岡^岡延^延生^生寺^寺園^園光^光大^大師^師開^開帳^帳 ○祐^祐町^町の^の法^法方^方より總^總列^列佐^佐倉^倉松^松林^林寺^寺千^千五^五親

世^世考^考開^開帳^帳 ○四月^{四月}より八月^{八月}迄^迄早^早天^天 ○四月^{四月}廿^廿日^日英^英一^一峰^峰卒^卒 深^深川^川法^法録^録中^中 ○五月

二^二日^日書^書家^家浪^浪溪^溪卒^卒 本^本名^名元^元明^明 三^三念^念寺^寺卒^卒 ○九月^{九月}十^十九^九日^日鳴^鳴島^島風^風卿^卿卒^卒 名^名信^信遍^遍宇^宇保^保極^極長^長院^院

二^二日^日書^書家^家浪^浪溪^溪卒^卒 本^本名^名元^元明^明 三^三念^念寺^寺卒^卒 ○九月^{九月}十^十九^九日^日鳴^鳴島^島風^風卿^卿卒^卒 名^名信^信遍^遍宇^宇保^保極^極長^長院^院

二^二日^日書^書家^家浪^浪溪^溪卒^卒 本^本名^名元^元明^明 三^三念^念寺^寺卒^卒 ○九月^{九月}十^十九^九日^日鳴^鳴島^島風^風卿^卿卒^卒 名^名信^信遍^遍宇^宇保^保極^極長^長院^院

○十月十日儒師稻葉迂舟卒 七十七歳名正養孫十左衛門頼通
亮光之孫華子男七黙多といふ

宝曆十一年辛巳

正月廿五日圓光大師五百二十年忌 ○二月朔日より茅協町茶師内にて信丹寺

井郡金胎寺不動尊山釈迦如来開帳 ○三月朔日より清原善五寺にて甲

丹遠光寺日蓮上人像開帳 ○三月十二日より本下川茶師如来本堂修復

出東寺開帳 ○四月十音より本処法因寺にて系本寺と釈迦佛像開帳

○四月朔日より回向院一言親法寺開帳 ○同日より洲崎寺天開帳

○四月八日より十七日迄新尊越念佛院中乃娘忌廿又井邊供養 ○四月春

山若老寺阿弥陀如来開帳 ○三回八幡宮開帳 綱ヶ合札にて
美室小物せう ○雲巖島開帳

橋本稻荷社茶師如来開帳 ○四月八日より清原玉泉寺にて下総國塩谷

法宣寺祖師開帳 ○法華唯念寺あり下野國高田阿弥陀如来 若老
一新分身 開帳

○青山 久保
町 寺值寺十二面觀世音菩薩 ○千石谷八幡宮にて武州入若野山

口村東蓮寺 秀衡守
和名 車蓮二尊阿弥陀如来開帳 ○四月十五日より相次江の高

岩登舟才天開帳江戸より系指多 ○五月他諸師慶紀速卒 卒今谷中
庵來寺小寺

辭世 以年て始てあまのりよ
殊院不向て中口けり ○六月金胎寺大津尋南卒 四十二歳
孫公忠 ○八月十七日塚

町中の芝居 棟
座 上より火火塚町葺葺町乾燒 中村勘三郎が芝居不
善後中より不焼 ○九月二日官儒

中村蘭林卒 名朋遠林深翁
谷中必林寺 ○九月廿二日金胎寺杉浦宗意卒 六十
一才 ○十一月廿

七日儒師井上蘭臺卒 名通照林嘉膳
落合恭雲寺 ○十一月二日能人松本淡淡浪花卒 八十
八才

○十一月廿八日親香上人五百年忌 ○日暮村長泉律院開創堂宇落成 三孫
山翁

大佛正成茶大玄和尚淨云傳の二寺茂創せんとの志願より入寂の後建弟不知百計千重にて川越
蓮聲寺に生教玄上人力を勤て終不成就すとの時任感夢寂位門和為乃徳の言えあり臨門師
業杖花一巻 持あり ○十二月廿日金胎寺稻川直光卒 林文四年
弟中野中不妻

同 十二年壬午 四月国

二月日幸檜南町焼亡○四月より東本願寺にて常陸國水戸縣船山院
 入寺宝物之詳せしむ○八月より深川浄土寺にて甲助小室妙法寺祖師開
 帳○八月より日向院にて上徳園子田村裕合寺齋次彌陀如來開帳○八月
 浅草西福寺慈母無天宝物開帳○麻布一本松大法寺大慈天佛散大師の他二面開帳
 ○高橋如來寺あり多摩郡日永村一石山十一面觀世音開帳○高橋安
 申堂開帳○足立郡清根安穩寺日蓮上人牛込宗相あり開帳○昨年
 山王洲祭礼延引今年六月祝あり○七月より永代寺にて成回不動尊并
 帳○伊豆子長慈母あり越中善徳谷本法寺海中出現法花經紺地金泥文
 曼荼羅本相あり○谷中大杉あり下総水戸野法蓮寺日蓮上人像開帳
 ○牛込園福寺より足州加殿妙國寺日蓮上人開帳○浅草新所宗安寺七
 重觀世音開帳○浅草極寺員佛所跡地如來開帳○十月三日書家紀田

耕山名雅通林甲四節○十月龜戸龍眼寺小殖髮の冬子と安置於荏原郡
 法永清谷寺小立一像之

寶曆十三年癸未

二月十五日より龜戸龍眼寺殖髮聖徳太子開帳○二月より深川玄信寺
 阿彌陀如來開帳○二月廿六日追龜戸天満宮社所建立成徳
 寺開帳○三月九日より押上大雲寺觀世音開帳○三月廿二日より日向院
 如來上州大同山聖徳太子開帳○八月八日より深川浄土寺にて堀の内
 妙法寺祖師開帳○四月朔日より芝如來あり河内森井八幡宮開帳
 ○四月七日瀧山町より出火救急所門前焼亡○六月十音山谷巽
 田明神祭禮壽子町より出火救急所門前焼亡○六月廿一日
 画家狩野祐清英信卒号如満百七十七 深川浄土寺小室○長崎より傳一と号し生年

よりて冬活小い日せ探ひてとて一枚摺せ賣せり○六月能優萩野八重
 桐船は宗中海ふ地碎身の餘り規せろんとて川下り立海へ入弱死を
 平賀鳩溪根より受とりて紙をつて定むる紙のぶ○八月廣東人參
 高賣を止めり○九月朔日日蝕多曆面小脱せりといふ○九月廿四日
 宗礼昨年より延ひ當月執り○十月廿四日同町幸子岡田治助
 朝鮮人參座を令せり○十二月十九日書家篠田以休卒
 名貞貞号金溪
 跡人小日向全別
 善ちよ小 ○古今相撲大全梓行 木村政務 著 志道新傳梓行 風来山人 撰

此年間記事

日暮里多森稲荷三塔社 新ふ勃精尺 ○坊上高塔院公光院赤羽根
 川端うら 移る ○同是播種と境内窟出來る ○宝曆中淡路山の上人本
 款ふよて江戸並近生合々弘法大師八十八箇取系始る 大進物始 小りりる ○松森

稲荷を宝曆九年迄隔年産子の町より花中一様物作樂を渡りて其後
 中絶也 ○小野照崎明林系隔年作樂也一様物を作りて宝曆七年より
 中絶也 ○宝曆末より久日新田社より系消多し社地又尖を賣始諸人求て書
 と是 ○根岸田光も倉中藤のをも盛の以貴後越親多し ○婦女賣金
 廢り其紙紙にて張る日傘行る ○夏合羽夏火事羽織漸く始る ○土佐
 節海瑞瑞廢れ江戸並海東並大坂の義友と并京の園八並山崎並其の
 海より行る ○卜者平沢左内ね学若神登軍書講釋師深井志道初
 其傳次 志野瑞竜初成田壽仙も行る 志野仙の 志野 志野 ○北頃大盛取松云七十艘ありし
 よし壘塚終りいり ○且那のわつと膏菜と唱て市中一業を賣る者あり ○
 浮世繪師終末真信石川豊信 秀龍と号云掛園飯盛の父也 高辰清倍山在哉信
 其卒 鬼玉其外多し ○好事の輩古物を集る事多し

○は時代世上の風俗をのへる故本邦にれぬ為様切しけるを撰て洋判記を
 作り千石齋と號し其内蜀山人の水滸論を別て賞せり○其紀述武玉川と
 いふ俳出十六篇をいふり人の笑柄とて川柳が折柄も是より出たり云々
 ○山本祥観坊といふ若下を流義といふ多紙をあらうて世に流る載りところ
 或交るれども教戒の言を用ひ人の著書十三部程あり
若述目録ありて其書
 回向院にありて下を流義
 下を流義羅字集は流義あとの多紙の中より ○其三回 俗稱 賤奴才のと言ふ流義
此れ六作人の作也これを流義下を流義
 とあはすべし ○家衣小東尾菴云其既河卷をようてたの方小番坊川端は石
 工をそれが家の前より男女の石像あり是は宝曆の流義戸小流義坊より其家の
 史婦の石像といふ後年流義とて流るる子供もあつたりふや取あまふ
 流義坊より流義小流義を文化の字流義を流義とて流るる流義坊より史婦石
 と号して何る流義と立流義人なりと云々○宝曆三年の流義より大文字流義の

大うぢわわといふ童謡あり
吉原流義町より大文字流義を流るる童謡なり
 のどけい流義なりと異なりは流義自らかゝりて人を流義せけること

○寄合茶屋流義を流義流義川西宮流義あり○流義流義流義あり
蜀山人流義世流義
 流義流義

○宝曆中西村重長が繪巻江戸みやげ圖中其國流の流義水菓
流義流義

福内鬼外流義流義 流義流義ありて何れも佳化之
昭和七年小流義流義
 流義流義

○流義流義流義ありて何れも佳化之
昭和七年小流義流義
 流義流義

○流義流義流義ありて何れも佳化之
昭和七年小流義流義
 流義流義

○流義流義流義ありて何れも佳化之
昭和七年小流義流義
 流義流義

○流義流義流義ありて何れも佳化之
昭和七年小流義流義
 流義流義

○流義流義流義ありて何れも佳化之
昭和七年小流義流義
 流義流義

○流義流義流義ありて何れも佳化之
昭和七年小流義流義
 流義流義

○流義流義流義ありて何れも佳化之
昭和七年小流義流義
 流義流義

ビイドロを蒙後よりホルトカル辞ありと○横山町より目疾症を治す
とりのの工更して田舎に用ひ縮こりの齒是追牛にてありしを鉄より作り
何れも○圖書集成一万巻康熙帝の自撰之寶曆十一年船来して
官庫におさめらるる安齊湯字より何れも改元以前ありし

明和元年甲申 六月十三日改元 十二月間

二月十六日朝鮮人來 正使鄭尚厚副使李仁培 後奉陪樂仁奉教宿 三月六日上野より曲馬あり諸

人を見物す○二月より目白不動寺開帳○深川降るより鎌倉宿谷先

則經寺祖師開帳○深川永代寺より系栗田に青蓮院宮に持込不動寺

三条小波作に榎橋新設新親香上人殖發像開帳○茅切町茶師内より

奥州安達系人肌茶師如來開帳○日向院より武州檜木郡山口親世寺開

帳○目黒不動寺内より松沢大山林康子安地孫寺開帳○三田春日明神

開帳○日向院より伊勢山田入門寺延院如來 古刹文母延治 幡隨院感得 開帳○淺草報恩

寺より奥州南宮本誓寺親香上人宝物を拜せしむ○二月廿日夕七ツ時

新田新報所より火火小風烈しく蟻舘町多町堅大之町新石所舘所治

所西側皆川町永富町中町鎌倉町三河町多町日本報町つづ日本石所本

町多町目一石橋追焼日夜八ツ時色報治舘内へ飛火月所門焼所六ツ所纏る

韓人逗留のちちあせあり 此大よふ忍持せしとぞ ○二月中旬平賀鳩溪 糸 糸 火院布を工更し創り製し

中一香袋小作 報云雲母小中より質和よりやて火氣中より通る故に香氣あり

紅毛人よりせけるに大に發火紅毛天竺を如世界の國々あり織法を初より賞を以てしとぞ

後その多をぞ 公ふより官府より名物 勝りあり十月長崎より清人の監獄ありしとぞ

火院布隔火包紙之銘 火院之布自古有名彼處造説臆度量木皮斯謂鼠毛南荒

或果誣理謂傳者安津浪造物寧可推竊陽中有陰陰中有陽 入火不化系能制剛昔彼西戎今我東方織成素縷過以銀

○今年五月より明和六年九月より同日尾村大鼓指普清成 享保の末本倉某於
主として撰するを再修せる

○六月龜戸聖廟の傍小館人之申 廿一日の傍に
主として撰するを再修せる

○六月の改より深川 深川の末本倉某於
主として撰するを再修せる

○七月九日より十月十日近護國寺を移す 又三十に書札所記を惣因
り

○秋加茂の別荘深町一家を移す 移す野辺又畑も他りて何れも長とあつて

九月十三夜 こすのたのやめこのころあつた
月ひきすうとく人もあつた

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

○十月十九夜 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつとより深川流津治よ

不二 人とのりてかゝる人とのあふぬぬりの空けらるる

祝の心 波風もをさるる君の代われのたつとぬ日の本は里

○十一月廿八日御人活井書室卒 七十二才 薨る中
光徳の御書

○十二月朝鮮種人參賣私法免 参賣の種は既に
免

○十二月廿三日夜五半時村田園口町より出火して村田町に於て焼明七の時鐘 出火
の鐘

○閏十二月十七日明和六年田町より出火して大川端聖天町に於て焼せり

明和二年乙酉

二月日暮里妙隆寺太神宮本地親迎鬼子母神祖師開帳 ○谷中運ち

祖師開帳 ○三月七日篠村師深井志道軒終 名譽山号を一堂と云ふといふ
信之御師即小惑漏して杖をたの

○三月廿七日篠村師深井志道軒終 名譽山号を一堂と云ふといふ
信之御師即小惑漏して杖をたの

○三月廿七日篠村師深井志道軒終 名譽山号を一堂と云ふといふ
信之御師即小惑漏して杖をたの

○三月廿七日篠村師深井志道軒終 名譽山号を一堂と云ふといふ
信之御師即小惑漏して杖をたの

形之助と稱するもの
 志乃助が舟とて一の 群世 未よりぬりとせられたる月日(西)と云く(東)も中々
 又同時小湊野瑞祐軒といふ講釈師も其より其より生男其藏父の名を継て
 舌耕せり ○四月日光山所社忌万部所法會 ○飛戸村あり鉄鈔を講すあり
 らる ○六月より平井徳右衛門といふ若深川洲寄の東小御除土名長十七町餘有
 一丈二尺六寸の踏式を築立給ふ女万坪餘の地を宇丸型成年七月廿二
 日より塩を焼作む所の所を平井新田といふにたり見物の人夥しく安永
 といふよりるもあく止り 以不越親の所とありて大故極といふ ○秋發切ある ○七月
 朔日より日向院あり武及府中深大寺厄除元三大師開帳 ○同日より永代寺
 あり及留士福野厚系為我八幡宮 祐成時致 神像玉波明神 虎 開帳 ○月六
 日より日向院あり梅田村不動尊開帳 ○七月廿三回善林寺齒火河孫院如來
 坐像 ○八月三日大風雨深川辺甚餘亦上水来る ○八月十六日二朱判若吉清

死 今余 ○甚浦より一丈余の魚上る後西國揚畔より見世物と云く鱗あり

較の較之名をマンボウと云 ○九月五夜毎通用始る ○九月七日儒師長井嶽則

卒 名孝先称郡若史 ○九月向後續き神田明神奉禮九月廿三日不後神樂渡

る所の町々横町の切神主於いふ依く當年より柵を結ふる小成り

○十月廿日儒師本村遠兼卒 名貞貴字若忠 ○十一月神田今川村小右左火除

土名再興 ○十二月神田依久右町小醫學館建 多紀氏 ○十二月四日昼時日向

臺より火火夕七時迄燃る於燒多し ○十二月廿九日善家園恩恭卒 台十

号風岡経内中石川 林名寺小葉川

明和三年丙戌

二月朔日より永代寺より三洲伊賀村八幡宮本地茶師如來開帳 ○二月

廿日より所義前花徳院より三石碧海郡上守原村遍照院弘法大師開帳

○二月廿九日堺所製付油の店音飛より火火しくある所の芝居敷焼く大風お
しと焼度カキシラり因獄ウツヤの辺よなる○三月十二日下谷溝の家より火火車坂下まで
焼亡せり○四月朔日より目黒不動寺まで下野園若松山北蔵寺同焼
○同日より祐天寺跡跡如來祐天信正像同焼○同日より濃谷金王八幡
宮同焼○久保法善寺七面明社同焼○四月朔日より回向院まで大和
省系カキシラ光寺大満宮寺北十一面觀世音同焼○高田院八幡寺地佛同
焼○谷中宗林寺舟中林三郎鬼子母社祖師大満宮同焼○幡谷カキシラ谷蔵
寺不動寺同焼○芝心カキシラ社地より武州多摩郡國分寺薬師日光月
光并同焼○七月六日浩如小日向小石川平新の辺から水宮カキシラ塔まで
○靈巖カキシラ島理立地成り俗カキシラ薬師島といふ○七月朔日より回向院より
川崎真福寺薬師如來同焼○同日より回向院まで神奈川觀福寺浦島

大神守佛親世カキシラ寺カキシラ五子カキシラあり同焼○同日より濃草寺内社高院史六年寺大
腰カキシラ毫カキシラ寺カキシラ同焼八月日○同日より濃草寺境内より紀及加太陵島同焼
虚空藏菩薩同焼○護國寺より強河富士山宗人より東近寺佛同焼
○淡草カキシラ権寺より上乃甘樂郡白井源堂寺宗師如來圓光大師同焼
○彦戸カキシラ龍眼寺カキシラ庭中池辺木敷林の萩をカキシラ裁り是より毎年盛のカキシラ以カキシラ棧
遊覽カキシラの地と成る壽阿曇倉師の親は時代迄當りの辺に盜賊徘徊して行末の人の家
を別名を友別と名をけるを重名を裁て萩を裁るとゆふありと
りうまるとや
○十一月二日佛人柳花齋カキシラ概カキシラ卒五十才弱遊歴性不喜以常持佛持佛
台とあり
明和四年丁亥 九月間
正月元日未八刻より申刻迄カキシラ日蝕二分○四月朔日より永代寺にて江及カキシラ井生
島カキシラ每才天西玉札所親世音同焼○同日より保川御崎寺才天同焼○同日よ
回向院カキシラ藥師才天同焼○四月より目黒カキシラ不動寺カキシラ龍カキシラ獲カキシラ權カキシラ現カキシラ全カキシラ毘カキシラ羅カキシラ持カキシラ才カキシラ天

開帳 ○四月より谷中本光寺祖師開帳 ○猿町稚子宮宝塔元二大師開帳
 ○相五の島下の宮舟才久開帳江戸より集詣多し ○園東川に流あり
 ○四月九日駒形町より山火流草子風雷神門焼る二神像金龍山の額を
 恙多し ○真光神明宮の地より辻大納言家長卿河内持あり ○菅神
 の像より之勅請あり ○四月十二日儒師赤松太度卒 名弘 林正平 ○六月八日儒
 師服部仲英卒 名雄南郭の 長子あり ○七月廿二日儒師大藪鐵塘卒 名良良林名忠 後其室あり ○
 七月廿四日社陰流銀術師長沼四郎左衛門國々卒 八十六歳 巧運あり ○八月三日画人
 波辺湊水卒 早八十八名使林名義原市若福あり ○八月十五日田丸八幡宮祭礼
 産子町より出し煉物を以て社樂社樂坂の所旅和(派)一の尺 中絶を
 ○十一月晦日儒師赤松沙鷗卒 名舊邦太度の又之 庶弟若福あり ○秋祭切初る ○十二月五日狼
 のるねをよむ次金をよむ十二枚の通用と成る ○十二月書家飯田百川

卒 名祝勝林源口郎 慶隆の門人之り 後董其昌を学ぶ近世 西久保青純も小菴 董帖を摹すあり

明和五年戊子

正月廿七日英一蝶が養子一舟卒 徐保三弟名信持号東窓翁 二本松兼教中頭宗院の葬あり ○二月廿日より
 王子権現王子稻荷明神開帳 ○二月三都より降土真宗の怪しき法儀
 を行ひしものを刑せらる 俗におく門徒と 此のころあり ○三月千社が谷聖満寺如念満観
 世音開帳 ○三月十六日より永代寺より京大原野春日明神開帳 ○三月
 廿日より三田八幡宮開帳 冥宝を金れこれあり 日向院にて尾洲野間の開帳あり
 河堂地蔵寺開帳 ○三月大師河原村百姓太郎左衛門砂糖を製し弘む 製法 竹枝
 七交り若多し他名不圖合おりの以より紀伊府津の和漢雜貨所あり雜貨を何某製
 法を傳へて居て在田丸小豆島村の田畑に甘藷を多くてこれを製しける今若多し製法は
 傳を交ふる者ありとあり製法は多平賀松茂の物製品傳ふりつりこの時代まで
 砂糖不振り新来の物とのを好むより一層糖漿はより今の般に和製法の物なり ○四月朔日
 より若多弘法寺祖師開帳 ○四月六日曉八時吉原江戸町武丁目より山火大

風之廊跡より又十軒道中を焼亡也

明暦丁酉の災後高野(移りて)焚火災ありたり
幸ひ母の今年廊中のこぼ焼より九節の福有

社のもつがさ一俵宅(五本町)分戸橋場
山谷新を越(出)て百日の雨更せり

○六月廿九日通用始

此文揚(七)無事
おのて録

○六月廿七日

て禰禰和製を命せられ三都小集上

○六月九日鳥越明神祭禮神楽を演

舞子所より出(練)物を出也

○六月十六日夜四時五十分大雨大雷

八時廿四
山多門焼

○九月十八日哥人村田妻郷卒

二十才妻海の足あり
深川幸重子妻

明和六年己丑

正月五日書家之願卒

名云融牛通來町
親王と妻

○三月より浅草五泉寺より下総

谷安寺之祖師閑帳 ○谷中本妻より下総野呂妙興之祖師閑帳

○三月十日より飛戸天満宮内にて越後高田春日明神本地親志音

英子不氣之閑帳 ○三月より護國寺より大和子島寺大峯洋仗役

者閑帳 ○押上春慶寺之賢井閑帳 ○四月朔日永代寺四圍琴彈山

の字阿弥陀如来天地不動尊本自坊より閑帳 ○月八日より湯島社地

て和泉石津大社矣婆閑帳 式内の社と云社人石津連と云云の所巫女二人あり其を
撰て之を以て名成ありと云云於永妻信佛信よ

○四月七日より日向院あり川口善光寺阿弥陀如来閑帳 ○浅草寺境内

より奥州二本松鏡石寺 安達系鬼神遷座
東光坊後佛 親世寺閑帳 ○四月十八日より六月八

日迄浅草寺親世寺閑帳 ○五月朔日より浅草権寺あり常陸鹿島廣徳

寺廉島本地赤童子閑帳 ○同日より所苑前十五堂ありね及町尾村梅

雲寺三宮荒神宇帳 ○七月廿一日哥人村田妻道卒 ま湯の又あり
深川幸重子妻 ○七月下旬

より八月上旬迄孫星現を長教大爺の如く 縮星といふ
乳星こと云 ○八月廿二日未刻

より大風雷雨鳴あり人家を傷損を深川三十三乃堂倒る ○七月廿二日

算術師長部綱采卒 孫方左史
牛込若清子妻 ○九月十日小石川氷川明神祭礼者子

町より出づ練物せ出づ中後 ○十月風邪流行多後

運以下船あり程のことあり ○十月十二日官儒青木崑陽先生卒七十二才号草廬徐文菴云漢唐草也他より始りれ

甘藷先生といひ同是流承もの後山ふなる所の碑文をよむ

一面甘藷先生墓とあり右の方ふ如は藩以

享保二十年青木 敦書 蒙命種甘藷因呼予曰甘藷先生甘藷流傳使天下無餓人是予願也今作壽塚書石曰甘藷先生墓

左の方ふ云

君諱敦書字厚甫源姓青木氏号昆陽元禄十一年戊寅五月十二日生明和六年己丑十月十二日終寿七十二葬于下目黒村

別野南 君為儒營葬地于此故也

○十月廿六日金雕工濱野政隨終七十才

○十月晦日加茂真淵翁江戸終七十二才 川東海中 少林院小葬

武江年表卷之五終

